



あなたに出せない、あなた
への手紙

littlemoon

すこしづつ、書き足していく予定をしております。

たまに順番が変更になることを、ご了承くださいませ。

あなたと出会ったとき・・・実はそう好みのタイプとも、かっこいいとも思わなかったんだけど

やさしそうな人だなあ、と思ったのを覚えてる

今まで恋してきた人とは、なんかちがう

なにが？

なにがだろう、わかんないけど

あなたは私を見てどう思ったんだろうね？

そう、美人でもなく、スタイルがいいわけでもなく

それでも、一緒にいようと思ってくれた理由はなんだったんだろう

あなたとの一番最初のデートで、お茶した店は、

名前はそのままで経営者が変わってしまったらしいんだけど

あの時と同じミルクティをだしてくれるんだろうか？

手をつないでよ

とりあえず、手をつなごうよ

そういう言葉を口説き文句にしてる男友達をしってるけど

手をつなごうと思えない人とは確かに恋におちれないかもしれないね

大きな、ごつごつとしたあなたの手は

すべてを包み込んでくれそうで

力強さは

あなたの気持ちの強さに思える

寒い日はもちろん

おじいちゃん、おばあちゃんになっても手をつないで歩いていけるといい

そう信じてた

手をつないでよ、不安になるから

心を抱きしめるように・・・

あなたと初めてキスしたとき

あなたの緊張が伝わった

キスしたことにより、その緊張にドキッとした

キスは、その人と初めてするキスが一番心にくるものがあると思う

どんなにキスを重ねても

あの一回に勝てるキスはなかなかないと思うんだ

私の昔の彼氏と、あなたの昔の彼女

そこに新しい間接キスまで生まれるんだよ

誰かと誰かがキスをして

そして恋してる

夜空で星をみるのが好き

広く果てなく広がる宇宙を感じるから

そういう私のために

寒い日の夜、流星群をつかまえに二人でかけた

とある街から離れたゴルフ場の駐車場で

天を見上げて

手をつなぎながら寝転ぶ二人

いくつか流れていく流れ星に

二人の未来に希望を託した

この恋が、流れ星のように消えてなくならないように

自分の心の中が、はっきりと言葉に出来ない

あなたと学生時代の友達と街でばったりであった

私の知らないあなたを知ってる人

その頃のあなたは、今とは少し違うんだらうね

私の知らない友達と日々遊び

そして、今となっては過去だけど、恋人とかもいたんだらうね

その頃のあなたがいて、今のあなたにつながってる

わかってるんだけどね

私の知らないあなたを知ってる友達に

ちょっとジェラシー

けど、こんなこと言われてもあなたは困るだけなのはわかってる

だから何も言えません

そしらぬ顔で、あなたに笑顔

落ち込むことがあったの

冷静にどうすればいいか、話してくれるのはいいんだけど

ちがうんだってば

女心わかってくれないタイプだって知ってるけど

相談のようで、相談じゃないの

うんうんって言って

頭を子供みたいになでなでしてくれて

ぎゅっとしてくれたら問題解決した気分になれる

単純といわれても、しょうがないけど

女の子はいつだって、LOVEのパワーで生きてるんだよ

大雨に心がしょげてても、HUGで太陽がさしてくる

女心勉強してね

どんなに仲良くしても

長い時間、共に過ごしても

あなたは、あなたで

あたしは、あたしだね

当たり前の話なんだけど

とても気が合うといっても

好きな色、好みの音楽がすこし違うね

あなたと、あたしは

別の人間、わかりきったこと

けど、あなたのすべてが知りたい

私のすべてを理解して欲しいとか

無理なのはわかってるけど、もっと近づきたいな

違うところがあるから、好きになるんだってことはわかってるよ

恋はマーブル模様の空模様

憧れるのはシュガーな女の子

あなたに素直に甘えれたらいいのに

意地っ張りで強気なふりをしてきたあたしだから

素顔であなたにダイブできない

シフォンのワンピースを身に着けて

小首をかしげてあなたにスマイル

「大好きだから、そばにいてくれなきゃ寂しくて涙が出ちゃうよ！」

私のイメージじゃない？イメージってなんなのよ

甘え方をどこかに、置いてきちゃったのかな

シュガーな彼女になりたい

夜明け近くの街の片隅の

この部屋に薄明かりが差し込む

ふと気付くと、片方のピアスがどこかに行ってしまった

私の心に忍び寄る、宵闇はどこからきたのかな

明け方の明星は、二人とも好きな星

今日は曇っててみえないね

言葉に出来ないタイフーンが私の体の中にうまれる

黒い雲を巻き込み、ぐるぐる大きくなってゆく

のみこまれる、しずんでいく

あがく、のたうちまわる

体と気持ちが引き裂かれそうだよ

たそがれ宵闇、思考の海

あなたに出せない、あなたへの手紙

<http://p.booklog.jp/book/24237>

著者 : littlemoon

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/littlemoon/profile>

発行所 : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/24237>

ブクログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/24237>